

# オリガミアンだより

2020年11月6日発行

第28号

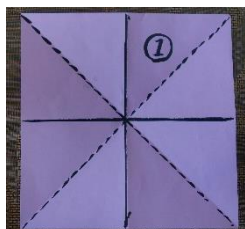
## 12月はクリスマスの練習をします

秋の深まりとともに、新型コロナが再流行の兆しを見せ  
ていますが、報道によるとサンタさんは例年通り出勤する  
そうです。トナカイにもマスクをかけて来るのかなあ。

あと1カ月で師走。新型コロナで訳の分からないまま刻が過ぎ去ったような印象もありますが、大丈夫。  
私たちの手元にはしっかり折り紙の技術が残っています。12月のテーマはクリスマスにちなんで  
「樅の木と、ときどきトナカイさん」をやります。時には脱線してトナカイのつもりが鹿になることがあ  
るかも知れませんが、お許しを。

### 樅の木

銀緑か金緑の両面折り紙を使うとクリスマスの雰囲気が出ます。やや大きめの紙がよいで  
しょう。東急ハンズ5階の「カワチ」は11月中、店内20%OFF(画材等)、在庫商品50%OFF  
の閉店感謝セールを実施、ハンズより1カ月早い11月末に閉店しますのでご注意ください。



樅の木の考案者を探索中。ご存じの方  
は連絡をお願いします

①の山折り線、谷折り線に沿って折る。④までで木の枝の峯が8枚出来る



⑤ 黒の斜線の部分をか  
ット



8つ出来た木の枝の峯のうち  
1つか2つだけをつまんで、残  
り部分を図のように下方から  
中心線までカット

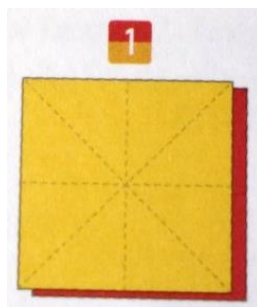


樅の木の頂上にきれいな星が出現。葉の部分には4〜5か所ずつ  
切り込みを入れ写真のように折り  
返すと美しい樅の木に変身

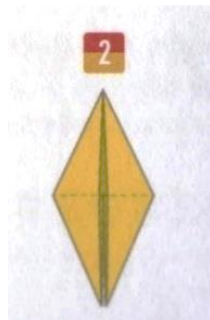


奈良公園の鹿さんです

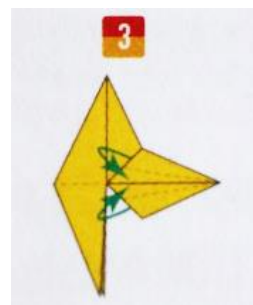
以下の鹿の折り方は近鉄奈良駅前「登大路  
ホテル奈良」が製作、配布したものです



色の違う2枚の紙を  
用意

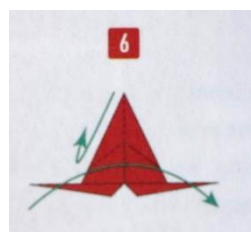
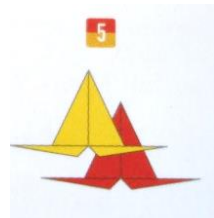


鶴を折る工程と同じ。  
菱形の袋状に折る



切れ目がある方を  
下にし、左右それぞ  
れ図のように折る

鹿の顔、胸、前脚



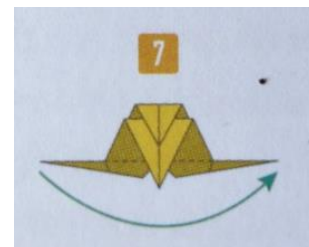
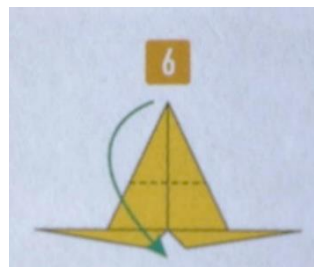
②から⑤までの工程を2枚用意する

上は谷折り、下は山折り  
にして2つに折る

胸と前脚が完成



鹿の尻尾・後ろ脚

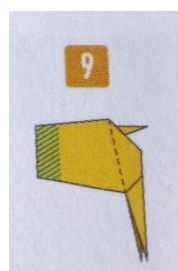
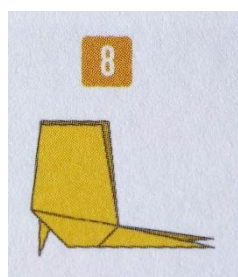


まず手前側を下に折る

少しずらし2つに折る

鼻の先を小さく折る

最後に角をハサミ  
でカットする



尻尾と後ろ脚が完成

お腹の部分に  
糊を付ける



最後に2枚を貼り  
合わせて完成!!



「オリガミアンだより」第26号にサンタクロースの折り図を紹介しています。合わせてご覧ください

**高木 智（さとし）氏の講演** かつて折り紙関係の著書も多い高木 智氏という方の「おりがみ講演」を聞きに行ったことがある。日記を見ると「1989年3月24日、県民会館」とある。もう30年以上も前になる。このころも折り紙に興味があったようで、懐かしく思い出す。講演から印象に残った内容を記してみる。

【なぜ日本に折り紙が？】

日本は農耕民族で田んぼを耕すために区切りが必要。狩りをする遊牧民族はあちこち曲線的に動くのに比べ、四角、直線は日本人の生活に密着していた。ここに折り紙成立の基礎があるのではないかな。

【折り紙の歴史】

平安時代には贈答用の折り紙が完成していたのではないかな。武士の時代になった時、武士は実力はあるが伝統的に朝廷に従属していた。朝廷の風俗に従っててもなすため、有職故実学習の必要があった。

なぜ、のちになって【武】の小笠原家が折り紙の本を出したのか？ 家康が天下統一後、小笠原家に武家の法規を作らせた（儒教、神道、五行など）。最初は武家だけの礼儀作法だけだったが、次第に武家の子ども、女たちにもこの規則を広めるのに折り紙を使った（元来、折り方はかみしもを着た武士が端座して習ったもの）。

【鶴はいつごろから折られたか？】

貴族にとっても紙は安価ではなかったので少なくとも平安時代には折られていなかった。正方形の紙を作るには紙を切る必要があり、古典の折り紙の90%は長方形。正方形の考えが出たのは恐らく鎌倉時代だろう。中世の史料は戦乱の中で大半が失われ、文学でさえ残っているのは少ない。鶴の折り紙がいつごろ出現したかは今となってははっきりしない。小笠原流や他流は江戸時代になってから昔のことを思い出して書いた。

【熊谷 記】